

ひょうご震災20年ボランティア活動フォーラムについて

- I 日 時 平成27年1月16日(金) 第1部 9:45~11:30
第2部 13:00~16:00
場 所 神戸クリスタルタワー3階 クリスタルホール(神戸市中央区東川崎町1-1-3)
- II 参加者 内外のNPO・地域団体関係者等 約200名
- III 主 催 ひょうご震災20年ボランティア活動調査検証・促進事業実行委員会(兵庫県ほか)
兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザ
共 催 読売新聞社
後 援 内閣府、全国社会福祉協議会、神戸新聞社、朝日新聞社、毎日新聞神戸支局、産経新聞社
日本経済新聞社神戸支社、NHK神戸放送局、読売テレビ、サンテレビジョン

IV 内 容

1 第1部(県民ボランティア活動フォーラム)

阪神・淡路大震災から20年、ボランティア活動のこれまでとこれからについて、議論を深めた。

(1) 基調講演 室崎益輝 ひょうごボランティアプラザ所長

演題 「震災からの復興が紡いだ兵庫のボランティア活動」

講演要旨 震災後、ボランティア活動は大きく広がったが、NPOや市民がもっと力をつけ、行政と地域コミュニティ、企業と対等な立場で連携し行動する、市民が主人公となる社会を築く必要がある。

(2) パネルディスカッション

コーディネーター 室崎所長

パネリスト 宮垣 元 慶應義塾大学教授

野崎 隆一 ひょうご市民活動協議会(HYOGON)代表

中村 順子 (認特)コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)理事長

小倉 譲 (特)しゃらく代表理事

■パネリスト発言要旨

宮垣氏 「ボランティア活動が広がり、ネットワークも強化されているが、活動者数や、寄附の減少傾向が気になり。若い人が活動しやすいよう、周囲の支えも必要。」

野崎氏 「阪神・淡路大震災後に育ったボランティア活動のネットワークを後継者へ継承するため、NPOと地域の連携が大切。」

中村氏 「団塊世代の活躍や、中間支援組織の底上げに期待したい。組織力の強い団体、事業展開に優れた団体、草の根の活動団体の3つの潮流が一緒になれば大きな力になる。」

小倉氏 「NPOが補助金や委託金に依存せず自立し、働く人が生計を立てられるようにすべき。ボランティアプラザには団体育成の土台づくりに力を入れて欲しい。」

2 第2部 (災害ボランティアフォーラム)

今や大災害時に不可欠な存在となっている「災害ボランティア」に焦点を合わせ、被災地域で「災害ボランティア」がより一層活躍するための方策について、幅広く議論を行った。

(1) 基調講演 鎌田 靖 NHK 解説主幹

演題 「二つの震災、そしてボランティア」

講演要旨 阪神・淡路大震災のボランティア活動の教訓が東日本大震災で生きた。ボランティアの役割は人々を「繋ぐ」ことと「続ける」ことに尽きる。

(2) パネルディスカッション

コーディネーター 古谷 禎一 読売新聞大阪本社編集委員

パネリスト 村松 淳司 東北大学教授

齊藤 馨 内閣府政策統括官(防災担当) 付参事官(普及啓発・連携担当)

佐甲 学 全国社会福祉協議会全国ボランティア・市民活動振興センター所長

細川 かをり 全国災害ボランティア議員連盟事務局長・福井県議会議員

笠原 麻衣 神戸親和女子大学4回生

■パネリスト発言要旨

村松氏 「これまでの支援に感謝したい。これからも、ぜひ東北に来ていただき、被災地の現状を実感してほしい。傾聴や、子どもたちのフォローなど、まだまだ支援が必要。」

齊藤氏 「ボランティアを行う方が活用できる制度もある。ボランティアに行けない人の思いも背負って活動を続けられる仕組みについて、政府もできることがあれば考えたい。」

佐甲氏 「災害時だけでなく、日頃のボランティア活動を進めていくことが大切だ。ボランティアを行う中で関わりができ、学ぶことを通じて活動が豊かなものになる。」

細川氏 「巨大災害に備え、ボランティアが継続的に活動できるよう、国レベルの環境整備が必要。ボランティアに行きたい人が行けば良いというレベルを超えた対応が求められる。」

笠原氏 「ボランティアは人生を豊かにする。東北に行って、喜んでいただいたことがエネルギーになった。学んだことを仲間にも伝えたい。移動経費の支援はとても助かる。」